

ルビコン川 - 引き返せない一線

Rubicon – The point of no return

遅きに失した行動は取り返しのつかない結果を招きます

ルビコン川、すなわち帰還不能点とは、それを越えると引き返すことが許されず、変更不能の状況に身をおくことになり、物理的に後戻りできない一線を意味します。この表現は紀元前 49 年にジュリアス・シーザーが当時イタリアとゴールの古くからの国境であったルビコン川を渡ったことに由来しています。



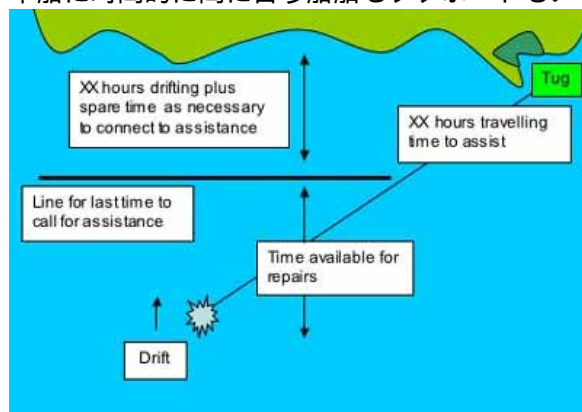
時としてわれわれは船舶の重大な損傷や全損、大規模な環境汚染、時には人命の損失さえ伴う座礁事故を経験します。このような事故の発生原因はしばしば機関の故障や、船上の他の不可欠な機械設備の故障にあります。かかる事故の事後調査でしばしば判明することは、本船の当初の状況判断が不十分であり、その初期の不十分な危機判断が事故に至る決定的な要素、あるいは時によっては原因となったということです。従って、最悪の事態を綿密に想定し、帰還不能点を正確に推定することが、危機的状況から納得の行く結果を引き出す判断の基準になります。

人的要素

危機的状況を脱しようとするとき、最も容易な方法を探りそれに照準をあわせるのが人間の性です。成功を期待し、気がかりなことや困難が最小限ですむ解決法を選択してしまい、その方法がうまくいかなかった場合を考慮することはあまり

ありません。この思考傾向を認識していなければ、船舶管理チーム（Ship Management Team = SMT）が該当状況下で最悪事態の想定をするのは無理で、それゆえ貴重な時間と判断材料を失うことになりかねません。

最近の事案を紹介しましょう。本船が機関の故障を起こし、機関長が修理に 15 時間を要すると報告しました。事態が発生したのは好天時に海岸からは遠い場所でしたので、危険が迫った状態ではありませんでした。機関長の解決策は船長の状況認識から見てもふさわしく思われたので、問題なく承認されました。修理に予定された時間が経過しても機関の修理は終わらず、風が強まってきました。機関長は更なる修理時間を 8 時間とし、船長は再びこれを了承しました。この修理時間も過ぎましたが機関の修理は完了しませんでした。しかし機関長はまだ楽観的で、新たに 6 から 8 時間の修理時間を示しました。このとき本船はすでに海岸近くまで漂流しており、天候も悪化してきました。本船の機関が修理されないと、大まかに見積もって 10 から 15 時間内に座礁するところまで来たので、船長は外部からの支援の可能性を検討し始めましたが、本船に時間的に間に合う船舶もタグボートもい



ないことが判明しました。つまり、機関は修理されることなく、本船は座礁して全損になったのです。人命が失われなかったのは幸いでした。

これは極端な状況ではありますが、ガードが時々経験する事件の中には、最悪の事態と帰還不能点を適切に想定していれば、重大な事故に至らずに小規模な事故にとどめられたであろうケースがあります。

帰還不能点の想定

まず、最悪の予想事態を設定することですが、もし設定の結果が誤りであったらどうするか、予備の部品や工具の備えはあるか、乗組員は各自の作業を成し遂げる能力があるかを考慮し、そのうえで帰還不能点を設定しなければなりません。帰還不能点を適切に予測するには、船舶は漂流するというのを念頭において、最も近い危険地点までの距離と時間を決定しなければなりません。この決定には、天候状態、潮流、波高も考慮に入れなければなりません。さらに、最寄りの救援所在地（通常はタグボートのありかですが、部品の供給者や専門業者）も見つけて、救援の可能性や本船までの到達所要時間も確立しておくべきです。到達所要時間が修理にかけられる時間を左右するので、これによって遅くとも何時までに援助を要請しなければならないかを予測することができます。これを本船の海図上に明瞭な線で記入しておきます。この線を越えたときこそが、本船に間に合うよう、直ちに応援を要請すべき時点です。

救助

船舶が洋上で修理作業を行っているときは、常時外部からの援助や救助の必要性を考慮に入れておくべきです。時間に余裕があれば、援助は常に船主や船体保険者と緊密に協力して要請すべき

です。船体保険者はたいてい各地の曳航会社と恒常契約を結んでおり、また本船を現地の代理店とつないで適切な援助を取り計らってくれます。

ロイズ救助契約標準書式（Lloyd's Open Form = LOF）もまた考慮すべき材料です。規則としては外部からの援助は固定費基準で早期に解決します。しかし、状況が進んで本船が帰還不能点を越えて漂流するまでになった場合、状況を脱する唯一可能な方法はLOFです。従って、早期に状況を正しく査定することが重要なのです。

まとめ

1. 最悪の想定場面を作成する。
2. 船主その他関係機関に連絡する。
3. 依頼可能な外部援助を探す。
4. 援助を依頼する最終点を定める。
5. 援助者たちと緊密な連絡を保つ。